

＜ギャラリープロジェクト＞
トークセッション 演劇嘶 Vol.16
～作家、マーティン・マクドナーに絡め取られてみる～
10月12日(土)開催！



10月8日(火)より『ピローマン』が開幕！
新国立劇場にて初のマクドナー作品上演にちなみ、
作家マクドナーにフォーカスを当てたトークイベントを開催！

映画「スリー・ビルボード」「イニシエリン島の精霊」など、新作が公開されるたびにアカデミー賞を賑わせる、イギリス出身の鬼才、マーティン・マクドナー。劇作家としてキャリアをスタートさせ、演劇界・映画界の2つのジャンルで活躍する彼の代表作の一つがこの10月8日(火)より開幕する『ピローマン』です。

新国立劇場でのマクドナー作品の上演は、意外にも今回が初となります。

つきましては、今回のギャラリープロジェクトでは、作家 マーティン・マクドナーにフォーカスを当てたトークイベントを開催します。

ゲストに現代イギリス演劇を専門とする演劇研究者である関 智子氏をお迎えし、新国立劇場演劇芸術監督であり、この『ピローマン』のみならず、過去に多数のマクドナー作品の翻訳・演出を手掛けてきた小川絵梨子と、マクドナーの劇世界について語り合います。

『ピローマン』の観劇前後や、マクドナーを映画から知った方もオススメのトークイベント。

ユーモアと凄惨な描写が見事に融合された、緻密なマクドナーの世界にあなたも「絡め取られて」みませんか？

沢山の方のご参加をお待ちしております！

現在、申込受付中の本イベント。ぜひ御媒体にてご紹介いただきますようご検討のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

<ギャラリープロジェクト>トークセッション 演劇嘶 Vol.16～作家、マーティン・マクドナーに絡め取られてみる～

イベント概要

[日時]2024年10月12日(土)18:00開演 ※90分程度を予定

[会場]新国立劇場 小劇場

[出演]

關 智子<演劇研究者／翻訳者／批評家>

小川絵梨子<新国立劇場 演劇芸術監督／『ピローマン』翻訳・演出>

[料金] 無料・自由席(要予約)・先着順

※どなたでもお申込可能です。

[受付締切]10月11日(金)23:59まで

[申込・詳細] https://www.nntt.jac.go.jp/play/news/detail/13_028435.html

登壇者プロフィール



關 智子

博士(文学)。早稲田大学文学部講師(任期付)。専門は演劇学(西洋演劇)、現代イギリス演劇、戯曲論。第16回小田島雄志・翻訳戯曲賞、第29回 AICT 演劇評論賞受賞、2024年度 ACC 日本グラントプログラム・グラント(NY フェローシップ)受賞。著書に『逸脱と侵犯 サラ・ケインのドラマトウルギー』(水声社、2023年)、共著に『紛争地域から生まれた演劇』(国際演劇協会日本センター編、林英樹・曾田修司責任編集、ひつじ書房、2019年)、『西洋演劇論アンソロジー』(西洋比較演劇研究会、山下純照編、月曜社、2019年)。翻訳戯曲に、ナシーム・スレイマンプール『白いウサギ、赤いウサギ』、アリス・バーチ『アナトミー・オブ・ア・スーサイド』他。



小川絵梨子

2004年、ニューヨーク・アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外研修制度研修生。18年9月より新国立劇場の演劇芸術監督に就任。近年の演出作品に『ART』『おやすみ、お母さん』『管理人／THE CARETAKER』『ダウト～疑いについての寓話』『検察側の証人』『ほんとうのハウンド警部』『死と乙女』『熱帯樹』『出口なし』『FUN HOME』『死の舞踏／令嬢ジュリー』『RED』など。新国立劇場では『デカローグ』、『レオポルトシュタット』『アンチポデス』『キネマの天地』『タージマハルの衛兵』『骨と十字架』『スカイライト』『1984』『マリアの首-幻に長崎を想う曲-』『星ノ数ホド』『OPUS／作品』の演出のほか、『東京ローズ』『かもめ』『ウィンズロウ・ボーイ』の翻訳も手掛けた。

『ピローマン』公演概要



『ピローマン』

【公演日程】2024年10月8日(火)～10月27日(日) プレビュー公演:2024年10月3日(木)・4日(金)

【会場】新国立劇場 小劇場

【作】マーティン・マクドナー

【翻訳・演出】小川絵梨子

【出演】成河、木村 了、齊藤直樹、松田慎也、大滝 寛、那須佐代子

【公式 HP】<https://www.nntt.jac.go.jp/play/the-pillowman/>

<あらすじ>

作家のカトゥリアンはある日、「ある事件」の容疑者として警察に連行されるが、彼にはまったく身に覚えがない。二人の刑事トゥポルスキとアリエルは、その事件の内容とカトゥリアンが書いた作品の内容が酷似していることから、カトゥリアンの犯行を疑っていた。刑事たちはカトゥリアンの愛する兄ミハエルも密かに隣の取調室に連行しており、兄を人質にしてカトゥリアンに自白を迫る。カトゥリアンが無罪を主張する中、ミハエルが犯行を自白してしまう。自白の強要だと疑うカトゥリアンは兄に真相を問いただが、それはやがて兄弟の凄惨な過去を明らかにしていく.....。

<本件に関するお問い合わせ>

制作部演劇 広報担当:杉田 TEL:03-5352-5738 FAX:03-5352-5737